

産地戦略

実施主体 岡山県
 都道府県 岡山県
 対象地域 真庭郡新庄村
 対象品目 水稻

実施期間 令和5～10年度



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類 該当するものに●を付けてください。

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	● 温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

2020年センサスによれば、新庄村は耕地面積124ha、総農家数151戸、うち販売農家88戸、自給的農家63戸が存在する。そのうち水稻作付けが85haと主要品目で、特にヒメノモチは地域ブランドとして作付け推進を行っている。栽培の際、高齢化が進み、夏場の追肥作業の省力化を図るため、一般的なプラスチック被覆肥料が普及している。近年肥料殻が海洋汚染の原因として課題になっているが、緩効性一発肥料の需要は高く、代替被膜の研究が進められている。そこでウレアホルムを用いた新たな緩効性肥料の効果を確認し、代替肥料として周知を図ることで、従来のプラスチック被覆肥料に代わり、ウレアホルムなどの環境保全型肥料が普及する。また適正な水管理の徹底により、過去に使用したプラスチック被覆殻の海洋流出を防止する技術が周知される。また省力技術として側条施肥機が普及する。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		←→ 施肥 移植					収穫						
技術名		散布機による施肥											

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		←→ 移植					収穫						
技術名		施肥同時移植											

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	88	▶ 88	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0.4	▶ 10	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	0.4	▶ 10	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	23.4	▶ 25	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	プラスチック被覆肥料の使用	▶ 環境保全型肥料の使用	肥料殻の流出防止
省力	散布機による全層施肥	▶ 側条施肥機による移植同時施肥	施肥作業の省力化

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	環境保全型肥料の使用面積(ha)	0.4	▶ 10	
省力	側条施肥機による移植同時施肥面積(ha)	23.4	▶ 25	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する
(有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする)

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

令和5年度の検証結果を基に作成した栽培マニュアルを用いて、講習会等で被覆殻流出対策についての技術指導を行うとともに、プラスチック被覆肥料の代替としての環境保全型肥料の有効性について啓発する。また、JAは講習会の開催を企画し、農業者へ参加を促す。関係機関は連携を図り、肥料殻流出防止対策の取り組みを啓発する事で栽培体系の普及と定着を図る。

関係者の役割

関係者名	岡山県	JA晴れの国岡山蒜山アグリセンター	新庄村農業公社	農業者
役割	コーディネート 被覆殻流出防止対策の啓発	代替肥料の販売 被覆殻流出防止対策の啓発	作業受託 被覆殻流出防止対策の啓発	講習会等への参加

その他